

第一朗読：使徒たちの宣教(使徒言行録4・8-12)；ほかのだれによっても、救いは得られない  
答唱詩編(詩編118・1+2、16+17、22+23)；今日こそ神がつくられた日、喜び歌えこの日とともに。  
第二朗読：使徒ヨハネの手紙(一ヨハネ3・1-2)；わたしたちは御子をありのままに見る  
アレルヤ唱：(ヨハネ10・14)；わたしはよい牧者、わたしは羊を知り、羊はわたしを知っている。  
福音朗読：ヨハネによる福音(ヨハネ10・11-18)；良い羊飼いは羊のために命を捨てる

今日は世界召命祈願の日に当たります。教皇フランシスコは今年の教皇メッセージの中でこう呼びかけています。

『「起き上がりなさい」。眠りから覚めましょう、無関心から抜け出しましょう、閉じこもりがちな牢獄の鉄格子を開けましょう。そうすることでわたしたち一人ひとりが、教会で、世界の中で、自分の召命を発見し、希望の巡礼者、平和の建設者となれますように。熱意をもって生きましょう。周囲の人々と、わたしたちが暮らす環境とを、愛をもってケアするよう力を尽くしましょう。・・・  
聖エリサベトに対するマリアのように、わたしたちも喜びを告げ知らせ、新しいいのちを生み出し、友愛と平和を作る職人となりましょう。』

さて、今日の福音でイエスは、「わたしはよい羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」といいます。ご自分のためではなく、キリストを信じるすべての人のために命を捨てるのです。人の目には、イエスの死が無駄に終わってしまったように見えます。十字架につけられて死んでしまったのです。ところが、3日目に復活し、弟子たちに現れました。

マタイによる福音では「マグダラのマリアともう一人のマリア」に現われ「『おはよう』とあいさつされた」とあります。マルコによる福音では、「まずマグダラのマリアに現われた」とあります。そのあとに田舎の方に向かう二人の弟子に別の姿で現れたとあります。ルカによる福音ではこの二人の弟子、エマオへの二人の旅人にイエスは現われました。イエスは彼らに聖書のみ言葉を解き明かし、ご自分のことについて書かれていることを解き明かしました。それでもまだ彼らは理解していませんでした。宿に着いて、食卓についたとき、イエスがパンを取り、賛美をささげて、裂いて二人に渡しました。二人はその時にこの方がイエスだと気づきましたが、その姿は見えなくなりました。イエスは別の姿で現れたのです。それはパンの形で現れたのです。わたしたちがミサの中でいただくパンの形で現れたのです。ヨハネによる福音ではマグダラのマリアに現われます。イエスが「マリア」と呼びかけるとイエスだと気づくのです。

復活されたイエスの呼びかけにわたしたちは耳を傾けていかなければなりません。「主の呼びかけを識別する」というのは、生き方を識別するということです。わたしたちの召命、根本的な選択を行う過程を経て自らの召命を見いだすことです。救い主を待ち望んでいる人にキリストのみ言葉を伝えるという預言者としての召命があります。

今日の福音で「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる」と言っています。「囲いに入っていないほかの羊」というのは、神を信じているがキリストを知らない人のことかもしれません。あるいはイエスを知っているのに外に出て行ってしまった人を指しているかもしれません。このような人にキリストを告げ知らせるのがわたしたちの役目です。わたしたちもキリストを述べ伝えるという召命を生きていくのです。

「主の呼びかけを生きる」というのは、福音の喜びを自分自身も生きるということです。ルカによる福音で「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(ルカ4・21)とあります。今日こそ、そのときなのです。キリスト者としての使命は今現在のためのものです。主はご自分に従うよう、今日も絶えず呼びかけられておられます。わたしたちは完ぺきに行える状態になるまで待つのではなく、神が与えてくださった今日この日に、その使命を生きるのです。良い羊飼いですイエスはいつもわたしたちとともにおられます。主イエス・キリストのみ名によって、わたしたちそれぞれの召命を生きていくことができるよう祈ってまいりましょう。